

# 韓国日本語学会 ニュースレター

[2021-02]



発行人: 黄永熙 / 編集人: 國生和美 / 発行所: 韓国日本語学会 / 発行日: 2021.10.1.

ご挨拶	2
役員名簿	3
常任理事会	8
会員情報	11
その他の学会ニュース	12
学術大会結果報告	14
連携協力研究会活動報告	15
編集委員会	19
『日本語学研究』論文投稿案内	22
学会ホームページ案内	28

🏠 〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室

🌐 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長: 朴慧眞) ☎ 010-7450-4055

(学術事業企画事務局長: 張允娥) ☎ 010-2893-2042

(教育広報事務局長: 中村有里) ☎ 010-7457-7001

## ご挨拶

これまで韓国日本語学会の行事と事業にお力添えをくださいました方々に、心より御礼申し上げます。去る9月11日に開催されました第43・44回国際学術大会は「文法と社会言語学の融合から日本語教育の実践まで」という主題にて成功裏に終了いたしました。遠洋漁船は出航のために、機関長、航海士など、少なくとも11名の船員が必要だと言います。近年では、この職種もなり手が少ないそうです。日本語学界も内外に困難が多い中、学術、研究、海外、教育、出版、事務局など、学会常任理事52名のボランティアによって、年会費基準310名の会員の皆様を乗せて、11代の2年間、巡航を続けてくることができました。今、韓国日本語学会号は12代の出航に備え、しばし船体を休める時間をとっておりますが、盧姪鉉新任会長を中心に新たな航路が開かれていくことを期待しています。

11代韓国日本語学会では、何よりもオフラインからオンラインへの変化が最も大きかったように思います。学術誌「日本語学研究」はNewtro(New+Retro)なデザインの第69輯まで発刊いたしました。この他にも、NINJAL チュートリアル、韓国大学生日本語ディベート大会後援、姉妹学会である台湾日本語文学会国際学術大会参加、日本語学会(日本)会長との対談後の学術大会交流、ホームページのリニューアル、オープンアクセスのためのKJC学術誌専用ホームページ開設などを行ってまいりました。第2回となる城西国際大学学術賞、韓国日本語学会学術賞、功労賞なども、引き続き重層的に続いていくことを願っております。

COVID19という否定的な環境は、オンラインという肯定的な対応を可能にしました。地球温暖化という危機に、今や北極海航路の新たな時代が開かれているそうです。韓国日本語学会もこれと同じく、人文学の危機に直面して新たな研究領域を開拓し、教育実践の発展を図っていかねばならないでしょう。2020年9月に開催されました「ICT技術と融合する日本語学研究のフロンティア」という主題の第41・42回国際学術大会はフロンティア的な実験でありましたが、その成果が今回の学術大会へとつながって、7つ目の連携協力研究会である「AIとクリエイティブラーニング研究会」との協定を結ぶに至り、遅くまで学術的議論の場が繰り広げられ、今後のエデュテック(EduTech)と人工知能、メタバース(Metaverse)が適用された日本語研究と日本語教育への変化を予告しているかのようでした。その先頭に立つ韓国日本語学会は、今後も前進を続けていくことでしょう。無論、森山卓郎先生の基調講演「関係修復表現の過去形『ありがとうございます』と『ありがとうございました』」、そして洪珉杓先生の特別講演「社会言語学と日本語教育」のような、純粋日本語学と応用日本語学分野における探求も続いていくことでしょう。

韓国日本語学会の前途には、今後も様々な出来事が待ち受けています。ですが、その前途には、希望があると信じております。2022年3月の第45回国際学術大会はオフラインにてお目にかかりたいものです。末筆ながら、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

2021年9月30日

第11代韓国日本語学会会長 黄永熙

## 役員名簿

### ■ 常任理事

役職		氏名	所属	E-mail
会長		黄永熙	漢陽サイバー大学	tohyh@hanmail.net
副会長	研究	盧娃鉉	徳成女子大学	chel99@hanmail.net
	編集	蔡盛植	高麗大学	csshs@korea.ac.kr
	学術	郭銀心	京畿大学	kwak5017@naver.com
	事業企画	李峻瑞	聖潔大学	korjs2@gmail.com
	教育弘報	角ゆりか	明知大学	whitelily1227@hotmail.co.jp
総務理事	研究編集	朴孝庚	漢陽サイバー大学	phk0502@hanmail.net
	学術事業企画	孫栄爽	済州大学	freewill1472@naver.com
	教育弘報	魚住泰子	韓国放送通信大学	tacchu.j@gmail.com
財務理事		殷守希	淑明女子大学	esh0407@naver.com
評価理事		梁乃允	中央大学	ynaeyun@hanmail.net
学術理事		金義泳	ハンパツ大学	cara202@gmail.com
		金惠娟	聖潔大学	mahou@hanmail.net
		朴江訓	全州大学	hun0531@naver.com
		白以然	高麗大学	thyako@hanmail.net
編集理事		朴善玉	大眞大学	psoibm@hanmail.net
		兪樹延	全南大学	tokyoforeign@hanmail.net
		尹榮珉	延世大学	marchen52@naver.com
		李粹曷	嘉泉大学	suhyang1022@naver.com
出版理事		崔裕京	漢陽女子大学	ykchoi@hanmail.com
		権謹玲	高麗大学	gonchan95@hanmail.net
情報理事		李相怡	明知専門大学	zzivi@hanmail.net
弘報理事		國生和美	東國大学	kazumi0121@naver.com
国際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学	kjm0630@gmail.com
		朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com
		尹智鉉	早稲田大学	yoon.jh.2030@gmail.com
		鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp
	中国	母育新	西安外国語大学	wuyuxin@xisu.edu.cn
		譙燕	北京外国語大学	qiao0922@aliyun.com
		全紫蓮	慶尙大学	shizen9021@daum.net
	台湾	羅曉勤	台湾銘傳大学	hclo@mail.mcu.edu.tw
		河在必	釜山大学	hajp75@pusan.ac.kr
	オーストラリア	Lee, Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au
対外協力理事	ソウル	迫田亜希子	明知大学	as982095@gmail.com
	京畿	鄭榮美	韓国観光大学	youngmi0425@hotmail.com
	江原	高慧禎	カトリック関東大学	nunbusida@hanmail.net

	忠北	李忠奎	西原大学	ch4229@hanmail.net
	忠南	金玄珠	ハンバツ大学	khj15@hanbat.ac.kr
	慶北	李慈鎬	慶北大学	ljh2008@knu.ac.kr
	慶南	趙恩英	釜山外国語大学	choeun215@gmail.com
	全北	安志英	群山大学	ajy@kunsan.ac.kr
	全南	林禔映	全南大学	jy-lim@chonnam.ac.kr
	濟州	高暎喜	濟州大学	kyh080jp@gmail.com
	日本	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com
事業企画理事		李舜炯	慶北大学	soonhl@knu.ac.kr
		趙宣映	仁川大学	huyuski@daum.net
事務局長	研究編集	朴慧眞	ソウル女子大学	maipark@naver.com
	学術事業企画	張允娥	延世大学	willyoubehere@gmail.com
	教育弘報	中村有里	仁川大学	yoolee@inu.ac.kr
監事		文彰鶴	韓国外国語大学	kudosmoon@hanmail.net
		李承英	光云大学	sylee27@kw.ac.kr
編集委員長		曹英南	高麗大学	choyn@korea.ac.kr

■一般理事(国内:가나다順, 海外:五十音順)

〈国内〉		
檢校裕朗(極東大)	姜旻完(大邱カトリック大)	高恩淑(韓國科學技術大學)
琴鍾愛(忠南大)	金東奎(韓国外大)	金平江(祥明大)
朴才煥(京畿大)	方允炯(水原大)	白同善(江原大)
酒井真弓(徳成女大)	朴良順(蔚山科學大)	朴英淑(水原科學大)
成玗婀(祥明大)	孫在賢(徳成女大)	宋殷美(白石大)
宋正植(仁荷工專)	辛銀真(仁川大)	梁敏鎬(釜慶大)
吳玆定(建國大)	元智恩(崇實大)	李東哲(新羅大)
張根壽(祥明大)	張元哉(啓明大)	鄭起永(釜山外大)
鄭相美(新羅大)	鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)
黃圭三(瑞逸大)		

〈海外〉		
阿部貴人(専修大学)	嵐洋子(杏林大学)	磯野英治(名古屋商科大学)
李在鎬(早稲田大学)	植松容子(昭和女子大学)	宇都木昭(名古屋大学)
大塚 薫(高知大学)	沖 裕子(信州大学)	荻野綱男(日本大学)
奥野由紀子(東京都立大学)	生越直樹(東京大学)	落合由治(台湾淡江大学)
金庭久美子(立教大学)	金 愛蘭(日本大学)	金智賢(宮崎大学)
金 蘭美(横浜国立大学)	倉持香(Volkshochschule Augsburg)	河野俊之(横浜国立大学)
白岩広行(立正大学)	全永男(中国延辺大学)	高木千恵(大阪大学)
Daniel Long(東京都立大学)	Tiziana CARPI(ミラノ大学)	CHUSRI,Asadayuth (チューラーロンコーン大学)
中山亜紀子(広島大学)	名嶋義直(琉球大学)	西川朋美(お茶の水女子大学)
野田尚史(国立国語研究所)	橋本直幸(福岡女子大学)	藤岡典子(シンシナティ大学)
松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)	山内博之(実践女子大学)

■編集委員会(2020.1.1-2021.12.31)

委員長：曹英南(高麗大学)

監事：尹榮珉(延世大学)

<p>音声学 音韻論</p>	<p>閔光準(建国大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) *高慧禎(カトリック関東大)</p>	<p>語用論 社会言語学</p>	<p>洪珉杓(啓明大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姪鉉(徳成女大) *鄭賢児(西京大)</p>
<p>通時論 形態論</p>	<p>張根壽(祥明大) 裴銀貞(釜山外大) 金廷珉(亜細亜大学/日本) Lee,Duck-Yong (The Australian National Univ./豪州) *朴江訓(全州大)</p>	<p>日本語教育</p>	<p>落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 李恩美(明知大) 鄭相美(新羅大) *金義泳(ハンパツ大) 倉持香(Volkshochschule Augsburg/ドイツ)</p>
<p>意味論 語彙論</p>	<p>*李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽濟(白石藝大)</p>	<p>日本語史</p>	<p>羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) *朴孝庚(漢陽サイバー大)</p>
<p>その他 日本語学</p>	<p>李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 鄭惠先(北海道大学/日本) *辛銀眞(仁川大)</p>	<p>◆「*」は、実務担当編集委員(実務委員) そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である。</p>	

### ■研究倫理委員会

委員長	盧姓鉉(徳成女子大学)
委員	姜旻完(大邱カトリック大学), 朴江訓(全州大学), 酒井真弓(徳成女子大学), 梁敏鎬(釜慶大学), 張良光(カトリック大学)

### ■学術研究発展委員会

委員長	高慧禎(カトリック関東大学)
委員	朴海煥(淑明女子大学), Lee, Duck-Yong(The Australian National Univ.), 李承英(光云大学), 全紫蓮(慶尙大学), 洪珉杓(啓明大学)

### ■学術誌発展委員会

委員長	李恩美(明知大学)
委員	朴江訓(全州大学), 朴孝庚(漢陽サイバー大学), 曹英南(高麗大学), 蔡盛植(高麗大学), 洪珉杓(啓明大学)

### ■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大学)
委員	金志宣(梨花女子大学), 中村有里(仁川大学), 持田祐美子(平澤大学), 迫田亜希子(明知大学), 川口慶子(崇實大学), 小島堅嗣(培材大学)

### ■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓(啓明大学)
委員	姜錫祐(カトリック大学), 朴海煥(淑明女子大学), 李暻洙(韓國放送通信大学), 李恩美(明知大学), 曹英南(高麗大学)

### ■学会発展基金委員会

委員長	李峻瑞(聖潔大学)
委員	高慧禎(カトリック関東大学), 金惠娟(聖潔大学), 南得鉉(明知専門大), 崔正勲(CS インターナショナル)

### ■諮問委員会

監事	姜錫祐(カトリック大学)
委員	康仁善(聖公會大学), 金玉任(誠信女子大学), 盧明姫(東國大学), 閔光準(建國大学), 朴海煥(淑明女子大学), 李暻洙(韓國放送通信大学), 李範錫(カトリック大学), 李漢燮(高麗大学), 尹幸舜(ハンパツ大学), 鄭相哲(韓国外国語大学), 洪珉杓(啓明大学)

# 常任理事会

## \* 第六次 常任理事会

(2021年 2月 19日(金) 16:00 ZOOM オンライン会議)

### 1. 研究・編集 関連報告

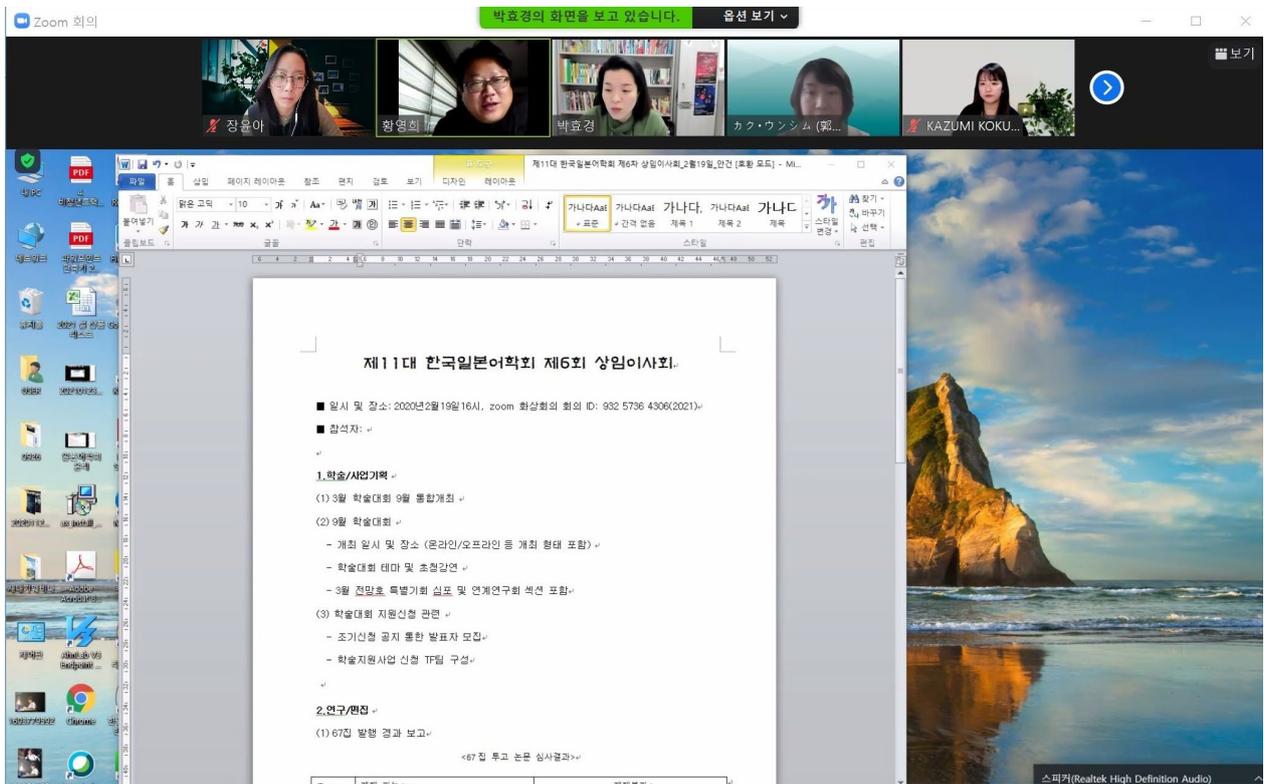
- 第 67 輯『日本語学研究』発行経過報告
- 学術誌評価 TF チームの編成
- 学術賞の選定準備

### 2. 学術・事業企画 関連報告

- 2021年度(9月)第43・44会国際学術大会開催について

### 3. その他

- 韓国研究財団 KJC ホームページ開設
- 「第二回城東区民と共に行う日本専門家招請特別講義」の案内
- 2021 年度研究倫理国際カンファレンス APRI の案内
- 次期会長及び副会長推薦



## \* 第七次 常任理事会

(2021年7月5日(月) 16:00 ZOOM オンライン会議)

### 1. 研究・編集 関連報告

- 第68輯『日本語学研究』発行経過報告
- 学術賞選定の経過報告
- 学術支援事業の申請準備
- 出版理事委嘱の報告
- 出版社変更の議決

### 2. 学術・事業企画 関連報告

- 2021年度(9月)第43・44回国際学术大会開催について

### 3. その他

- 夏季ワークショップ開催の是非(記念品で代替)
- 次期会長及び副会長推薦

The screenshot shows a Zoom meeting in progress. The main window displays a presentation slide with the following content:

19分- 1分- 12分- 5分- 1分-  
経過率 68.4%

(2) 학술심 선정 진행 보고: 2019년도~2020년도 투고 논문을 대상으로 편집팀에서 1차 선정 데이터 준비하여 학술심 선정위원회에 건문, 7월15일 선정위원회 회의 통해 결정.

(3) 학술지원사업 선정 준비(7월7일~7월14일) -

(4) 출판사와 편집위원회의 연계를 도와 주실 김근열 출판이사님 위촉(고려대학교) 보고 -

(5) 출판사 변경 의결: 한국문화사로 이전 -

3. 정보 / 홍보 -

(1) 2021년 9월 학회 종료 직후 제11대 회를 뉴스레터 발행 -

4. 기타 안건 -

(1) 하계 워크숍 진행 여부(이님룡 대표) -

(2) 학회 공로상(일본회임하시는 교수님들), 동사상 9월학회에서 수여 -

(3) 차기 회장 및 부회장 추천(6월말 상임이사회에서 진행 예정) -

5. 증발 -

Zoom meeting interface includes a top bar with a status message "박효경의 화면을 보고 있습니다." and a participant list on the right with names like 박 효경 (호스트), 황영희, 박 용우, 자운 이자호, HI Hyeoyun의 iPad, KAZUMI KOKUSHO, SAKODA AKIKO, 카 카쿠, 角 角ゆりか, 권 권근형(고려대), 박 박강훈, 박 박효경(PC), 釜 釜山外人 藤恩英, 손영석, 魚 魚佐泰子, 윤 윤영민, and 손희 은수희.

## \* 第八次 常任理事会

(2021年8月13日(金) 16:00 ZOOM オンライン会議)

### 1. 研究・編集 関連報告

- 第 69 輯『日本語学研究』発行経過報告
- 学術賞選定完了の報告
- 学術誌出版社変更の報告

### 2. 学術・事業企画 関連報告

- 2021年度(9月)第43・44会国際学術大会開催について

### 3. その他

- 功労賞授与(国際交流基金・時事アカデミー・連携協力研究会・海外の姉妹学会)
- 次期会長及び副会長推薦

The screenshot shows a Zoom meeting interface with a presentation slide. The slide title is "제11대 한국일본어학회 제8회 상임이사회". The content of the slide includes:

- 일시 및 장소: 2020년 8월 13일 16시, zoom 회의 ID: 988 3375 5315 암호: cubPw) <\/li>- 참석자: <\/li>- 1. 학술/사업계획 <\/li>- (1) 제43회・제44회 국제학술대회프로그램 세부사항 작성<\/li>
  - 일반발표 24팀(4/6), 기탁발표 6팀(프로그램 기간 참조)<\/li>  - 기탁발표에 한해서 발표 1건 당 토론자 1명으로 배정 <\/li>- (2) 학회 당일 진행 방법<\/li>
  - zoom 유료아이디 구매(사용가능한 한시대 아이디 제외 5개, 메인 센터 관리자 아이디로 구매 포함) <\/li>- 참고: 2020년 총 관리 담당<\/li>- 백인센터->이성이 경보이사님<\/li>- 발표장->스민 유민카, 장준아, 김의영, 백이현, 나카후미 유리, 샹코단 아키코 이사님 <\/li>- 각 발표장 상임이사님들 3명 경도의 그룹으로 담당-도우미 역할 할조 부탁드립니다.<\/li>- 학술대회용으로 대어진 강의실 활용 방안.<\/li>

- (3) 학술대회 사전 시뮬레이션 <\/li>
- 일정: 9월 4일 토요일(기간)<\/li>- 운영 담당 매뉴얼 작성 및 배포 (예) 발표자를 마이크 오트 셋팅, 질의 응답 받는 방식<\/li>

## 会員情報

### ○ 任用及び、転任

洪 珉杓 会員

啓明大学教授 定年退職（～2021.8.31）

### ○ 出版

著書名：『한일 언어문화의 이해』

著者：洪 珉杓

出版社：韓国文化社

出版日：2021-2-25

著書名：『外国人労働者の韓国語習得と言語環境』

著者：助川泰彦・吹原豊・松崎真日・磯野英治 著

出版社：韓国文化社

出版日：2021-3-31

著書名：『コピュラとコピュラ文の日韓対照研究』

著者：金 智賢

出版社：ひつじ書房

出版日：2021-7-26

### ○ 事務局

🏠 〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科  
黄永熙教授研究室

🌐 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長：朴慧眞) ☎ 010-7450-4055

(学術事業企画事務局長：張允娥) ☎ 010-2893-2042

(教育広報事務局長：中村有里) ☎ 010-7457-7001

✉ [jlak123@hanmail.net](mailto:jlak123@hanmail.net)

#### ● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수희(한국일본어학회) 殷守希(韓国日本語学会)

- ・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌 ([학술지](#))よりダウンロードできますのでご利用ください。

## その他の学会ニュース

### 1. 2021年度 学術賞

#### ◆ 2021年度 韓国日本語学会学術賞

- 受賞者: 金延珉 (匪細匪大学)
- 論文題目: 英語台詞の日韓対訳集における中断節の特徴分析

(第61輯, 2019年 9月, pp.37-52)



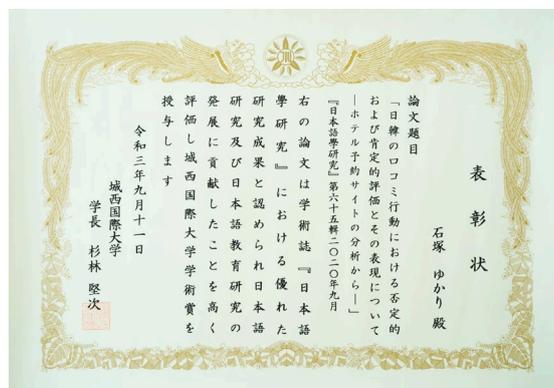
\* 本学術賞の副賞として授与された賞金の財源は、本学会諮問委員会の後援金により助成されたものです。

#### ◆ 2021年度 城西国際大学学術賞

- 受賞者: 石塚ゆかり (青森大学)
- 論文題目: 日韓のロコミ行動における否定的および肯定的評価とその表現について

-ホテル予約サイトの分析から-

(第65輯, 2020年 9月, pp.115-129)



○ 受賞者:李舜炯(慶北大学校)

○ 論文題目: ICTを活用した遠隔接触場面における日本語学習者と母語話者の聞き手言語行動  
(第64輯, 2020年 6月, pp.53-69)



\* この学術賞は、当学会と学術賞協定を締結した城西国際大学と共同で設けたものであり、副賞として授与された賞金(各 10 万円)の財源は、城西国際大学の後援金により助成されたものです。

## 2. 「AIとクリエイティブラーニング研究会」との協定

本学会は、7つ目の連携協力研究会である「AIとクリエイティブラーニング研究会」との学術交流協定を結ぶに至りました。



# 學術大會結果報告

## 【 第43・44回 國際學術發表大會 結果報告 】

- 日時 : 2021年 9月 11日(土)
- 場所 : 漢陽Cyber大學校 力量教育ワークショップ講義室2(ZOOM을利用したオンライン學術大會)
- 「文法と社会言語学の融合から日本語教育の実践まで」という主題で、早稲田大学の森山卓郎先生ならびに、啓明大学の洪珉杓先生の招聘講演が行われました。463名の会員の皆様にご参加いただき、成功裡に終了しました。
- 漢陽Cyber大學校のご協力に感謝申し上げます。

## 【次期(第12代)会長選出】

2021年 9月 11日(土)に行われた韓国日本語学会國際學術發表大會の總會にて、第12代会長として 徳成女子大學の盧姪鉉先生が選出されました。

### ●次期副会長

- 研究副会長: 高麗大學 教授 蔡盛植
- 編輯副会長: 明知大學 教授 李恩美
- 學術副会長: 京畿大學 教授 郭銀心
- 事業企画副会長: 聖潔大學 教授 李峻瑞
- 教育弘報副会長: 明知大學 教授 角ゆりか

### ●監査

- ソウル女子大學 教授 李善姬
- 祥明大學 教授 成玟珂

韓國日本語學會  
第43・44回 國際學術發表大會  
**Proceedings of the 43・44th General Meeting of the JLAK**  
September 11, 2021

문법과 사회언어학의 융합에서 일본어교육실천까지  
文法と社会言語学の融合から日本語教育の実践まで

2021년 9월 11일(토)  
한양Cyber대학교 (ZOOM을 이용한 온라인 학술대회)

주최 : 한국일본어학회 · 한양Cyber대학교 · 한국OPI연구회 ·  
일한커뮤니케이션연구회 · 한국계승일본어교육연구회 · AI와크리에이티브연구회  
주관 : 한국일본어학회  
후원 : 한양Cyber대학교 산학협력단 · JAPAN FOUNDATION SEOUL · ㈜시사Books

韓國日本語學會  
**The Japanese Language Association of Korea**

# 連携協力研究会活動報告

## □ 韓国継承日本語教育研究会 □

韓国継承日本語教育研究会の2021年前半期の活動について主なものをご報告します。

### ●『韓国の継承日本語教育ネットワーク拡大のための基礎調査』報告書を提出

国際交流基金ソウル文化センターの委託により韓国における継承語日本語教育の実態について全国調査を実施し、80ページの報告書を提出しました。本調査内容については、9月11日に開催の貴学会において企画発表として報告させていただきました。

### ●合計3回の定例会を実施

第30回定例会(2月6日)では、「家庭における継承日本語の捉え方と取り組み方」について日本語教育研究会チェンマイ支部の川合友紀子先生にお話しいただきました。また2019年に制定された「日本語教育の推進に関する法律」に関するビデオを制作し、公開しました(<https://www.youtube.com/watch?v=4crd3o6HO2c&feature=share>)。ぜひ、ご覧ください。

第31回定例会(2月27日)では、「継承日本語カリキュラム作成の試みー香港日本人補習授業校での教育実践」というテーマで香港日本人補習授業校の明石智子先生に発表していただきました。

第32回研究会(7月17日)では、「コロナ禍だからこそできることーオンライン言語教育の可能性」というテーマでカリフォルニア大学ロサンゼルス校の林あさ子先生にご講演いただきました。

### ●継承日本語の勉強会を実施

継承日本語教育の活性化及び交流を目的として勉強会を始めました。7月8月の夏休み期間中、毎週一回オンラインで勉強会を実施いたしました。

### ●第2回 継承日本語スピーチ大会 in 韓国を開催予定

2021年11月13日(土)に国際交流基金ソウル文化センターの後援を受け、Zoomで開催予定です。ご興味のある方はご参観も可能ですので、ご連絡ください。

★韓国継承日本語教育研究会の活動にご興味を持たれた方、是非ともご連絡下さいませ。

ホームページ <http://krkeishougo.net>

Facebook グループ「韓国継承日本語教育研究会」

## □ 韓国 OPI 研究会 □

韓国OPI研究会では、OPI(Oral Proficiency Interview: 全米外国語教育協会(ACTFL)が開発した口頭能力を測るためのインタビュー方式のテスト)に関する知識やインタビュー方法などを知り、教育や研究に活かすことを目的とした活動を続けています。活動は年4回の定例会と週1回のスタディー、そして約2年に1回開催するOPIテスター養成ワークショップなど多岐に渡っています。今回は、2021年度・上半期の研究会の主な活動について報告いたします。

### ◆定例会

2021年度第1回目の定例会は3月13日(土)にZoomで開催しました。日本語学習者を被験者としたOPIデモンストレーションを行った後、グループに分かれてレベル判定や判定の根拠についてディスカッションをしました(これは毎回行っています)。また、後半では日本語OPIにおける対話型タスクに関する論文を全体で輪読し、論文の内容に関する質疑応答や意見交換を行いました。また、2019年の夏に行ったOPIテスター養成ワークショップの受講生より、資格取得までのプロセスについての紹介をしていただきました(会員からの情報提供内容は毎回異なります)。

### ◆スタディー

2020年春ごろからOPIに関するスタディーが始まり、現在まで続いています。隔週で金曜日の午前中・土曜日の午前中に行っています。現在はOPIに関する文献のうち、評価や談話に関連した論文を読みながら、参加者間で自由に議論したり情報交換をしています。スタディーが参加者それぞれの研究のモチベーションにもなっているようです。

### ◆OPIイモジョモ(あれこれ)質問会

7月10日(土)に、第2回定例会の代替として開催されました。これはスタディーのときに読んでいる牧野他(2020)『OPIによる会話能力の評価—テストニング、教育、研究に生かす—』で疑問点として提出された事項を、著者の一人でいらっしゃる嶋田和子先生に直接お聞きしたいという参加者の希望を実現する形で開かれました。当日は嶋田先生から明快な回答をいただき、さらにOPIをとりまく最新情報も示していただき、非常に有意義な会になりました。

### ◆韓国日本語学会での学会発表

9月11日(土)に開催された韓国日本語学会の企画発表Ⅲにおいて、本研究会の会員2名が発表する機会をいただきました(迫田亜希子「日本語会話授業におけるシャドーイング練習と学習者の反応—OPIレベルにもとづいて—」、小島堅嗣「日本語学習者のフィラーの特徴—連続フィラーに注目して—」)。両発表ともに多くの貴重なご意見とアドバイスをいただくことができました。

### ◆新会長就任のお知らせ

2021年度第3回目定例会(9月4日)での承認を受け、本研究会の新会長に培材大学の小島堅嗣(こじまけんじ)が就任することになりました。今後も定例会やスタディーを始め様々な活動を通して、OPIを教育や研究に活かして行けるよう努力を重ね、他の研究会や学会と連携を図りながら努力を続けていきたいと思っております。多くの方にOPIに関心

を持っていただくべく活動を続けていく所存です。今後とも温かいご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

韓国OPI研究会: [kankokuopi@gmail.com](mailto:kankokuopi@gmail.com)

韓国OPI研究会ホームページ: <http://opik.da-te.jp/>

## □ 日韓コミュニケーション研究会 □

先日、オンラインで開催されました第43・44回国際学術大会において、韓国OPI研究会と共に企画発表をいたしました。関係者皆さまのおかげをもちまして、大変盛況にて企画発表を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。



私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013年5月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、翌年の10月には学術研究活動に重きを置くべく「在韓待遇コミュニケーション研究会」に、そして同年11月には、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと「日韓コミュニケーション研究会」へと名称変更をし、今日に至ります。

2021年8月現在、会員は5名在籍しており、韓国在住会員4名、日本在住会員1名となっています。個人での研究活動だけでなく、共同研究にも取り組んでおり、今年中に共同研究の成果を学会で報告することを目標としています。各グループで研究を進めるだけでなく、定期的に実施される全体会で、研究の構想を相談したり、進捗状況の報告や情報交換、また会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。

近年はコロナ禍により主にオンラインでの活動が主となりましたが、もともと私ども日韓コミュニケーション研究会は日本在住の会員や韓国在住の会員も各地にいるためオフラインだけでなく、オンライン上での会議も頻繁に行ってきました。そのため、一か所だけでの研究ではなく幅広いフィールドで研究活動ができ、データ集めや資料集めの際には皆積極的に協力してくれます。

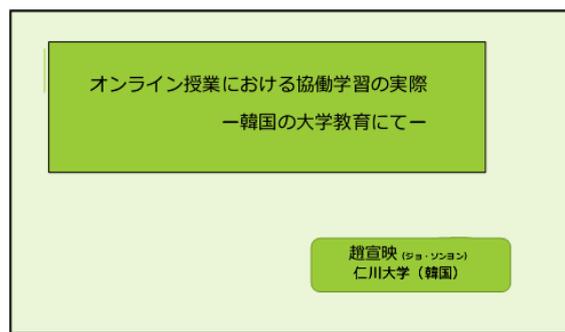
こうした活動によって、韓国内外の学会において会員による口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等様々な形で成果をあげています。2018年に出版された持田祐美子先生、伊藤貴雄先生、他一名による「"스피치"에 강해지는 일본어 작문 트레이닝」(スピーチに強くなる日本語作文トレーニング)が版を重ねるとい嬉しい話題もありました。

今後も韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思っております。ご興味をお持ちの方は、ぜひ当研究会へご参加ください。

## 📖 韓国協働実践研究会 📖

### ● 学術発表

第16回協働実践研究会(10周年記念)が2021年2月28日、Zoomによるオンラインにて開催されました。プログラムは、「世界に広がる協働実践:10年の歩みとこれから」をテーマとし、世界の各拠点報告&紹介、日本の活動報告、自由討論(協働学習は国・地域を越えてどのように受容され、拡張していくのか)という内容でした。韓国協働実践研究会では、金志宣氏(「韓国の日本語教育における教師研修-2010~2020年の活動報告」)と趙宣映氏(「オンライン授業における協働学習の実際-韓国の大学教育にて」)が発表者として参加しました。



### ● 出版のお知らせ



協働実践研究会/池田玲子編(2021)  
『アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング-協働実践研究のための持続的発展的拠点の構築』 ひつじ書房



韓国協働実践研究会編(2020)  
『協働学習の授業デザインと実践の手引き-韓国日本語教育の現場から』 學古房

\* 日本協働実践研究会 HP <http://kyodo-jissen-kenkyukai.com/>

# 編集委員会

## 【67輯編集委員会】

### ・第1次編集委員会 (2021. 1. 11. オンライン)

- 1) 第67輯 投稿論文確認及び報告 (15編)
- 2) 第67輯 投稿論文審査委員選定
- 3) 第67輯 審査日程論議
- 4) 第67輯 投稿論文審査依頼

### ・第2次編集委員会 (2021. 1. 29. オンライン)

- 1) 第67輯 審査進行確認

### ・第3次編集委員会 (2021. 2. 8. オンライン)

- 1) 第67輯 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第67輯 投稿論文審査の結果、10編の掲載を決定
- 3) 第67輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

### ・第4次編集委員会 (2021. 2. 26. オンライン)

- 1) 第67輯 投稿者修正内容確認
- 2) 英文要旨監修依頼、チェックサラン編集依頼

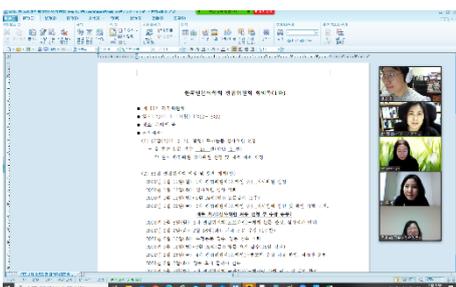
### ・第5次編集委員会 (2021. 3. 9. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第67輯 1次刊行作業経過確認
- 2) 第67輯 1次刊行作業及び校正作業

### ・第6次編集委員会 (2021. 3. 16. オンライン)

- 1) 第67輯 最終校正作業
- 2) 第67輯 印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程確認

### ・『日本語学研究』第67輯 発行 (2021. 3. 20.)



## 【68 輯編集委員会】

### ・ 第 1 次 編集委員会 (2021. 4. 15. オンライン)

- 1) 第 68 輯 投稿論文確認及び報告 (19 編)
- 2) 第 68 輯 投稿論文審査委員選定
- 3) 第 68 輯 審査日程論議
- 4) 第 68 輯 投稿論文審査依頼

### ・ 第 2 次 編集委員会 (2021. 5. 7. オンライン)

- 1) 第 68 輯 審査進行確認

### ・ 第 3 次 編集委員会 (2021. 5. 13. オンライン)

- 1) 第 68 輯 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第 68 輯 投稿論文審査の結果、13 編の掲載を決定
- 3) 第 68 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

### ・ 第 4 次 編集委員会 (2021. 5. 25. オンライン)

- 1) 第 68 輯 投稿者修正内容確認
- 2) 英文要旨監修依頼、チェックサラン編集依頼

### ・ 第 5 次 編集委員会 (2021. 6. 7. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第 68 輯 1 次刊行作業経過確認
- 2) 第 68 輯 1 次刊行作業及び校正作業

### ・ 第 6 次 編集委員会 (2021. 6. 9. オンライン)

- 1) 第 68 輯 最終校正作業
- 2) 第 68 輯 印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程確認

### ・ 『日本語学研究』第 68 輯 発行 (2021. 6. 20.)



## 【69 輯編集委員会】

### ・ 第 1 次 編集委員会 (2021. 7. 26. オンライン)

- 1) 第 69 輯 投稿論文確認及び報告 (13 編)
- 2) 第 69 輯 投稿論文審査委員選定
- 3) 第 69 輯 審査日程論議
- 4) 第 69 輯 投稿論文審査依頼

### ・ 第 2 次 編集委員会 (2021. 8. 11. オンライン)

- 1) 第 69 輯 審査進行確認

### ・ 第 3 次 編集委員会 (2021. 8. 13. オンライン)

- 1) 第 69 輯 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第 69 輯 投稿論文審査の結果、10 編の掲載を決定
- 3) 第 69 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

### ・ 第 4 次 編集委員会 (2021. 9. 2. オンライン)

- 1) 第 69 輯 投稿者修正内容確認
- 2) 英文要旨監修依頼、韓国文化社編集依頼

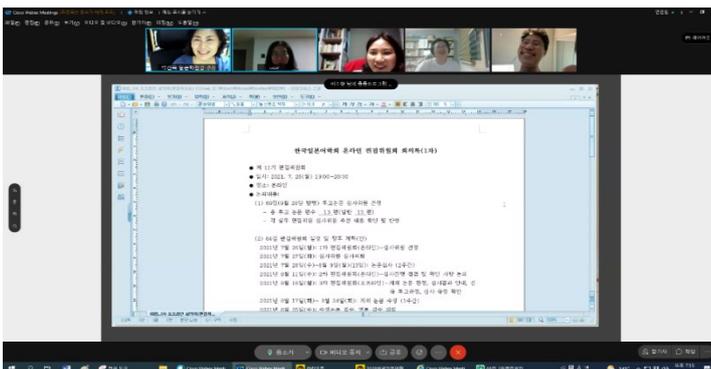
### ・ 第 5 次 編集委員会 (2021. 9. 6. 韓国文化社)

- 1) 第 69 輯 1 次刊行作業経過確認
- 2) 第 69 輯 1 次刊行作業及び校正作業

### ・ 第 6 次 編集委員会 (2021. 9. 10. オンライン)

- 1) 第 69 輯 最終校正作業
- 2) 第 69 輯 印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程確認

### ・ 『日本語学研究』第 69 輯 発行 (2021. 9. 20.)



# 『日本語学研究』論文投稿案内

## 『日本語学研究』投稿規定

### ■ 投稿規定

#### 第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

- ①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。
- ②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

#### 第2条(投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

#### 第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

#### 第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

#### 第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

## 第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

## 第7条(投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

## 第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

## 第9条(審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

## 第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

## 第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

## 第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

### 第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

#### 〈付則〉

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

# 『日本語學研究』投稿要領

## ■ 投稿要領

### 1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

### 2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

### 3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

### 4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

### 5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

#### ① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。(例:音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

#### ⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003) 「한일어 조사대조」 『일본어학연구』 6 한국일본어학회 pp.1-5

\_\_\_\_\_ (2004) 「일본어 대우표현의 특징」 『일본어학연구』 10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

## 6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央にく図1、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

## 7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

## 8. 外来語表記

ハンゲル正書法の外来語表記法に従う。

### ▣ 審査料及び、掲載料入金要領

#### [要旨発刊費]

■入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

#### [審査料]

■入金期限:論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

#### [掲載料]

■入金期限:掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文: 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

#### [入金口座]

■口座番号: 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

#### [審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jak.jams.or.kr/>)から提出する。

## □ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類: 使用者定義, 幅170, 縦240

■余白: 上 20, ヘッダー10, 下 10, フッター0, 左 15, 右 15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

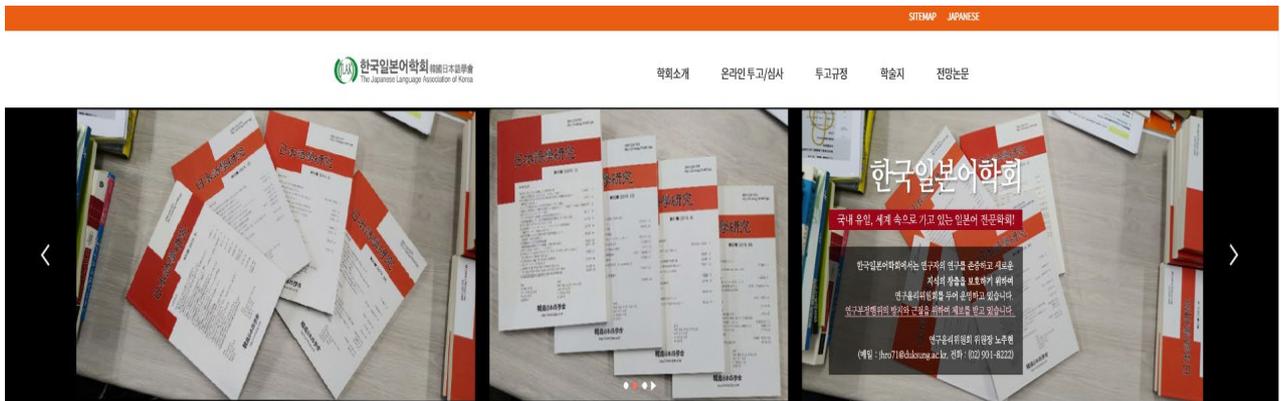
■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

\* 論文作成例示を参考にすること。

# 学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報



## Main Information



### 공지사항

학회대회 URL 및 요지집 다운로드 안내 / 学術大会のURL及び 要旨集ダウンロードの - 2020.08.17

제41, 42회 학술대회 프로그램 안내(제41-42회) / 学術大会 プログラム(2020.9.19, 20) - 2020.08.04

일본국립국어연구소 제37회 WJLJL 통틀리말 안내(통틀어) / 第37回 WJLJL 通틀리말 - 2020.08.18

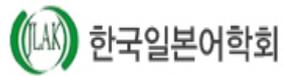
<일본국제교육기금> 차세대 일본연구자 국제포시 지원프로그램 안내(후보) / 国際教育基金 - 2020.07.28



学会ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr/>

The Japanese Language  
Association of Korea



ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。  
記事の掲載をご希望の方は、メール ([jlak123@hanmail.net](mailto:jlak123@hanmail.net)) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒04763 서울특별시 성동구 왕십리로 220 한양사이버대학교 일본어학과 황영희 교수 연구실	〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室
010-7450-4055 (研究編集事務局長:박혜진)	010-7450-405 (研究編集事務局長: 朴慧眞)
010-2893-2042(學術事業企画事務局長:장윤아)	010-2893-2042(學術事業企画事務局長:張允娥)
010-7457-7001(教育広報事務局長:나카무라유리)	010-7457-7001 (教育広報事務局長:中村有里)
E-mail : <a href="mailto:jlak123@hanmail.net">jlak123@hanmail.net</a>	Homepage : <a href="http://www.jlak.or.kr">http://www.jlak.or.kr</a>